



先生のおすすめ絵本

あのくもなあに？

〈文〉 富安陽子 〈絵〉 山村浩二 〈出版社〉 福音館書店



とてもきれいな空色の表紙が目を引く絵本で、どのページも「あのくもなあに？ なんだろね。」と始まり、想像が膨らみます。そしてやわらかな絵と色彩で楽しんだ後、「きっと そうだよ。そうかもね。」と結んでくれる文章が心地いいので、読んでいる私も子どもたちも「うん、うん」と納得する雰囲気になります。

園庭で遊んでいても「先生見て！飛行機雲だよ！」「雲に乗りた〜い！」「なんだかおいしそうだね」「〇〇の形だね」と、子どもたちは大人よりも先に面白いことやきれいなものを発見してくれる気がします。そしてみんなと一緒に居ると、ああ空を見上げるっていいなあと思う瞬間がたくさんあり、元気が出えます。

〈にじ組〉 S 先生

おやおや、おやさい

〈文〉 石津ちひろ 〈絵〉 山村浩二 〈出版社〉 福音館書店



今日は野菜たちのマラソン大会。野菜たちが、スタジアムや川沿いの土手を走る様子がユーモラスに描かれています。マラソンといえばハプニングがつきもの。野菜たちのマラソン大会でも思わぬハプニングが起こったりします。「そらまめ そろって マラソンさ」「きゅうりはきゅうにとまれない」など韻を踏んだような言葉遊び、面白い野菜たちの絵がさらに楽しさ倍増です。こぼと組がはじめにはまったのが「かぼちゃのぼっちゃんかわにぼっちゃん」でした。言葉を替えて自分やお友だちの名前を言ったりして楽しむ姿がありました。繰り返し読んで絵本のセリフを全部覚えてしまいました。ラディッシュやパセリ、セロリなどあまり子どもたちには馴染みのない野菜も出てくる場所も面白く、知らない野菜に興味を持つことができます。何度読んでも楽しめる言葉遊び絵本です。

〈こぼと組〉 I 先生

読み聞かせノートより

オレ、なんにもしたくない

〈文〉 デヴ・ペティ 〈絵〉 マイク・ポルト
〈訳〉 小林賢太郎 〈出版社〉 マイクロマガジン社



何をしたら良いのかわからないカエルくん。色々な友達に何をするのが良いかなと聞きます。

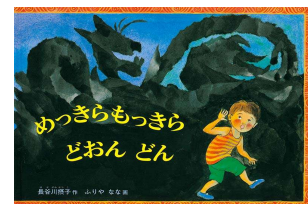
ふくろう君には「寝ます」と。ブタ君には「ドロの中に鼻を入れる」と。しかしカエル君はどれもイマイチだと言います。するとまた別のカエルから、「何もしなくて良いじゃん」と言われます。カエル君はそれを言われてハッ！とします。そうだ「何もしない」という予定ができた喜びます。

何もしない日があっても良い。そんな事を思わせてくれてユーモアのある絵もかわいいです。

〈こぼと組 Mさん〉

めっきらもっきら どおんどん

〈作〉 長谷川 摂子 〈画〉 ふりや なな
〈出版社〉 福音館書店



遊ぶともだちがいなかったかたが神社でめっちゃくちな歌を歌ったことから、不思議な世界に舞い込み3人のおばけたちと楽しく遊ぶお話です。初めてこの話をきく子どもたちも多かったようで、興味深そうにきいてくれていました。

〈ひよこ組 Sさん〉

※紙面で紹介している絵本の表紙画像の掲載には、出版社の許諾をいただいております。

幼稚園生活が少しずつ日常に戻り始めた今年度。絵本の読み聞かせ、秋祭りの古絵本市、年中長さんの絵本の部屋ご招待と様々な活動をさせていただきました。メンバーの交流会を数年ぶりに開催でき、保護者の輪が広がられたことも収穫の一つでした。興味を持ってくれるかな、と選んで行った絵本を読み始めると、純粋な眼差しで絵本を見つめながら聞いてくれる子どもたち。その姿に癒され、かけがえのない時間を共有させてもらいました。

子どもたちが絵本に親しめるこの素晴らしい環境をこれからも受け継いでいっていただけたらとても嬉しく思います。

〈令和5年度ぶれいめん役員一同〉



編集
後記